



# 観音山公園プール オープン1周年を迎えて

高崎市 都市整備部 公園緑地課



カッパピア跡地に整備した観音山公園

高崎市の西南部に位置する観音山丘陵は、風致地区として都市計画決定されており、赤松林に覆われた風光明媚な地域です。白衣大観音や参道商店街、染料植物園、自然遊歩道などがあり、観光地として、また市民の憩いの場として多くの人々が訪れるスポットとなっています。

観音山丘陵には、昭和37年に開園した民間会社運営の遊園地(通称・カッパピア)がありましたが、平成15年に惜しまれつつ閉園。その後、カッパピア跡地は荒廃化が進み、地域住民から早急な対応が求められました。当該施設は、都市計画決定されている総合公園内にあることから、土地や建物等を市が取得し、「観音山公園(約15ha)」として再整備することとなりました。

高崎市内には、緑の中で水辺に親しみながら自由に遊べる公園が少ないことから、夏の暑い時期に子どもたちがのびのび遊べる場所を確保する必要がありました。そこで、観音山公園に、子ども向けのプール(観音山公園プール)を建設するとともに、芝生広場や既に部分開園していたドイツ製の遊具で遊べるケルナー広場を整備し、昨年7月17日に全面オープンしました。

今回は、今年2年目を迎える観音山公園プールの特色や、取り組み状況を紹介します。





## ■小さい子どもも安心して遊べるプール

観音山公園プールは、「25mプール」、噴水型の遊具で楽しく遊べる「じゃぶじゃぶプール」、水深の浅い「幼児プール」、水の流れて滑り降りて遊ぶ「せせらぎプール」などで構成されています。25mプールは、競技として使用することもできますが、コースの半分をかさ上げしているため、子どもでも安心して利用することができます。また、プールサイドには、暑さをしのぐ日除け付きの休憩エリアが複数設置されていて、一日中楽しく遊ぶことができます。

昨年は、延べ26,541人の方に利用いただきました。

## ■観音山公園プールの取り組み

特徴的な取り組みとしてあげられるのが、キッチンカーの出店です。プール施設内に食堂が無いため、昨年夏のプール開場期間中、プール施設脇にキッチンカー4店を出店し、飲食を販売しました。また、プールサイドから直接キッチンカーへ行くルートをつくり、管理棟を通らなくても購入できるよう工夫しました。

プールの管理棟は、更衣室、シャワー室、トイレ(多目的トイレ有)のほか、保健室や授乳室、パウダールームなどが完備され、全てバリアフリー仕様となっています。プールを管理・運営する指定管理者の(公財)高崎財団の職員が管理棟の事務室に常駐していることから、プール開場期間以外にもロビーやトイレ、保健室、授乳室などを利用することができます。公園内のケルナー広場や芝生広場の来場者に配慮したものです。

## ■利用料金と公共交通

プールの利用料金は、小学生以上が100円、小学生未満は無料で、子どもたちが気軽に利用できるよう安価な設定としました。また、観音山公園に市バス「ぐるりん」が乗り入れています。また、利便性の向上を図るため、プール開場期間の土・日・祝日に、高崎駅西口から観音山公園を經由し観音山山頂駐車場まで臨時バスを運行しています。

今年の開場期間は、6月30日から9月17日まで(9月は土日祝のみ開場)を予定しています。

子供も安心して遊べるプールです。多くの方々の来園をお待ちしています。



噴水型の遊具が特徴のじゃぶじゃぶプール



幼児に人気のせせらぎプール



プールに隣接するケルナー広場のドイツ製遊具

